



ロマンシング・ステージ おく。

町勢要覧1994

人形劇の祭典
『喜之助フェスティバル』

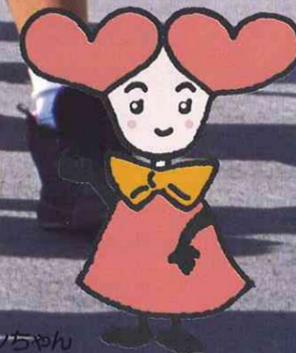


町の沿革

昭和27年4月1日、邑久・福田・今城・豊原・本庄・笠加村が合併し邑久町として町制を施行。昭和29年1月1日に玉津村を、昭和33年4月1日に裳掛村を合併し、現在の町の規模となる。

町名の由来

邑久郡は古くは「^{おほく}大伯」と呼ばれ、「国造本紀」には「大伯国造」と記されている。また、藤原宮跡出土の木簡に、「大伯評」「大伯郡」と表記されている。「大伯」から「邑久」へ変わったのは「続日本紀」からで、和銅6年(713)に国郡郡名が「好字」で表記されたことによる。



ロマンちゃん

町勢要覧「ロマンシング・ステージ、おく。」1994
発行/岡山県邑久郡邑久町 〒701-42 邑久町尾張300-1
☎08692②1111 FAX 08692②3304
印刷/石井印刷有限会社



「生活快適公園のまち」 実現に向け躍進する町

邑久町は、県庁所在地の岡山市に隣接し、JR赤穂線やマイカーを利用しての通勤、通学の便も良く、都市近郊型の町として発展を続けています。また、町を東西に縦断する岡山ブルーライン沿線は、産業振興や観光開発などに大きな可能性を秘めています。企業誘致やスポーツ・レクリエーション施設の充実など若者が定住できる魅力ある町づくりと、居住環境の整備を計画的に進め、21世紀へ向けて大きく躍進しています。



上・邑久町を東西に縦断する
岡山ブルーライン
左・通勤通学客でにぎわう
JR赤穂線の邑久駅



・メルヘン人形劇場「ヘンゼルとグレーテル」



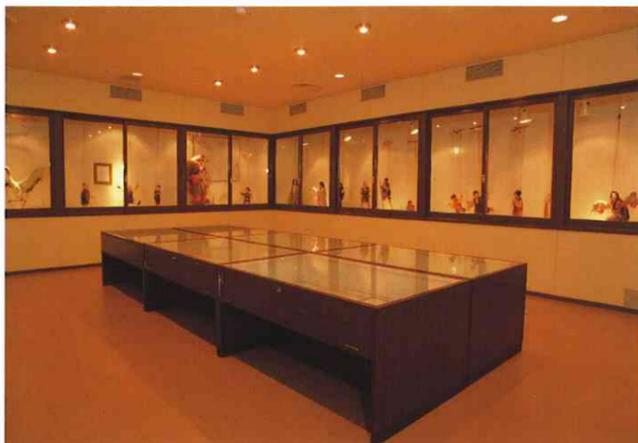
上・フェスティバル開幕を知らせる
保育園児の鼓笛
下・ユーモアたっぷりの人形の動作
に大人も子どもも大爆笑



上・人形でテープカット
下・竹田喜之助の代表作「雪ん子」



上・地元の中学校の生徒さんも参加
右・邑久町尾張にある町郷土資料館
の喜之助記念室には喜之助が製
作した数多くの糸あやつり人形
が展示されている。



夢あふれる人形劇の町

邑久町出身の偉大な糸あやつり人形師・竹田喜之助（故人）の功績をたたえるために始まった『喜之助フェスティバル』。師の優れた文化遺産の上に、毎年新しい夢を創造しています。毎年、8月の第3土・日曜日に開催しています。





・ピクニックにて（夢二郷土美術館蔵）

邑久町は、山あり川あり海ありと豊かな自然に恵まれた美しい町です。名所旧跡も数多く、特に虫明瀬戸のあけぼのは有名で、古くから詩や歌に詠まれています。また、大正ロマンの叙情的な画風で一世をふうびした竹久夢二の生まれた町でもあります。

自然に満ちロマンが漂う町



上・夢二の写真や遺品が多数展示されている“少年山荘”

左・邑久町本庄にある竹久夢二の生家は当時のままに保存されている。夢二はこの家で16歳まで過ごした。



左・桜の名所として知られる上寺山余慶寺（北島）

下・バードウォッチングが楽しめる大平山の野鳥の森（虫明）



上・虫明瀬戸のあけぼの

下・邑久町豊原の自然教育の森キャンプ場

左・養殖カキのいかだが並ぶ虫明湾



・権現まつり (大賀島寺)

おくみてある記

SIGHT-SEEING OKU



・魚まつり



・餅まき会陽 (神田稲荷宮)



・太刀踊り (正八幡宮)



・人形供養 (横尾山地蔵院)



・邑久町港まつり



・みかん狩り



・カキ



・マスカット
・ピオーネ



・虫明焼

(山陽新聞社刊「最新版・岡山県万能地図」より)

邑久の 民話・伝説

せんりきさま 千力様と はいづかさま 灰塚様

虫明の藪奥というところに「灰塚様」と呼ばれ、土地の人から信仰されているお地蔵尊があります。灰塚様は千力様（今から三百年程前に虫明に陣屋を置いた伊木長門守忠貞公の通称）

の孫の伊木家の五代当主伊木忠義公を偲ぶお地蔵様です。忠義公は、享保五年（一七二〇）八月に死去し、故あって藪奥の同地で火葬にふされました。古色蒼然と

一説によると、忠貞公の誕生を待つ人々に向かって奥方は、出産誕生から七日間はこの産所に何人たりともはいることも、また、部屋をのぞき見ることも禁じられました。夫の忠繁公

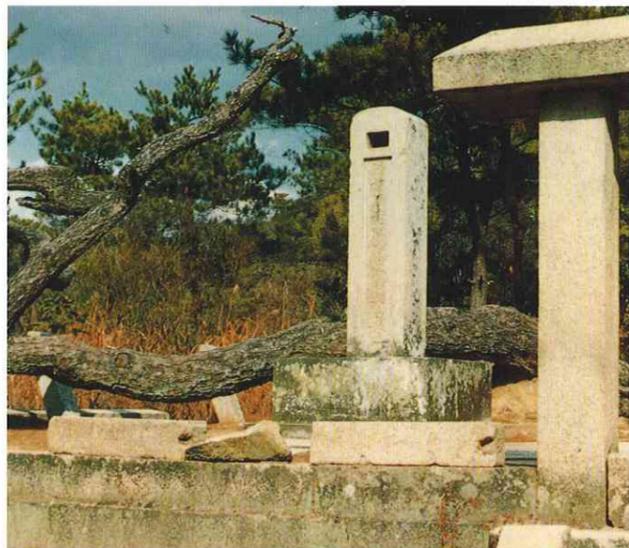
した一大地蔵尊が祖父の忠貞公を忍ぶように千力山の山裾に香の薫りのなかに凜然として座しておられます。祖父の伊木忠貞公は、天正十年（一五八二）に織田信長に従い、桶狭間の合戦に参加しました。忠貞公の戦いぶりは、敵も味方の軍勢も驚くほどで、その力は「千人の力」を持つと伝えられています。伊木家の三代当主忠貞公の誕生には色々な伝説があります。



▲ 灰塚地蔵尊が安置されているお堂



▲ 灰塚地蔵尊



▲ 伊木忠貞公墓碑（昭和60年頃撮影）当時すでに松は枯れていて、現在では松は残っていません。

（伊木家 代当主）はこらえきれずとうとう三日目の夜半に自分の寝床をこっそり抜け出して赤子の泣き声のする産所の前にたち、迷いながらも組み立てられた葦の影から、そっと部屋の中をかをのぞいて見てしまいました。

部屋のなかには玉のような赤子が、なんと、とぐろを巻いた大蛇に抱かれ、青々と光る大蛇の目玉を「チュウ チュウ」と吸っていたのでした。腰を抜かさばかりに驚

いている忠繁公に向かい、静かに奥方は「この和子に一万力の力を授けよう」と懸命に努力いたしました。が、約束が破られたため、今千人の力しか授けることが出来ませんでした。姿を見られた以上、このままここにとどまることは出来ませぬ。」と申し残り、赤子の泣き声を後に、いずれにか姿を消してしまいました。奥方は、大蛇の化身だったと伝えられています。

千力山の頂上の忠貞公の墓碑の横に以前は、大蛇の

題字・書家 奥田桂峰
文・郷土史クラブ



シンボルマーク

人が手を取り合い、その間にはハートが浮かび上がって、「人と人とのふれあいや心の豊かさを大切にしていきたい」という願いが込められたシンボルマークです。町のリズムカルな躍動感あふれるイメージも表現しています。イメージカラーは、それぞれ「ロマンスピンク」「カルチャーグレー」と名付けられた、あでやかで印象的なピンクと、落ち着きとあたたかみのあるグレーの2色。このシンボルマークのもと、邑久町は“輝く明日”へ向け、表情豊かな町づくりをすすめます。

町民憲章 (昭和57年8月制定)

わたくしたちは瀬戸内の風光、吉井川の清流、千町の沃野など豊かな自然と、長い伝統に培われてきた邑久町の住民です。このふるさとに誇りを持ち、町民互いに協力し、平和で豊かなまちづくりを進めるため、この憲章を定め、その実現に努力します。

- 自然を愛し、環境をととのえ 美しい町をつくりましょう
- 秩序を守り、協力して 明るい町をつくりましょう
- 勤労を重んじ、生産を高め 活気のある町をつくりましょう
- 人権を尊び、生きがいと 安らぎのある町をつくりましょう
- 歴史と伝統をたいせつにし 文化のかおり高い町をつくりましょう



愛称 「ロマンちゃん」

■ マスコットキャラクター

前から見るとハートが2つくっついたような頭、首に結んだ大きなリボン……この女の子の愛称は「ロマンちゃん」。テニスをしたり食事をしたり、愛きょうたつぷりの、かわいいそのしぐさは、子どもたちからお年寄りまで広く親しんでいただけます。ロマンちゃんは、きょうも明るく希望を運びます。



町木・ウバメガシ



町花・月見草



邑久町庁舎